



御幸

よさを学び
やりぬく子供
を育成する学校

第
13号

令和2年12月23日発行
うきは市立御幸小学校
校長 後藤 重治 文責

＜ いろいろ「やりぬいた」2学期でした ＞

8月18日に始まった2学期は88日間もあり、1学期とは違う意味で未曾有でした。その中で416名の御幸っ子は、いろいろな「やりぬき」を体験し、さらに成長した姿を見せてくれました。そのことを、11月末～12月初に行われた「ふれあい遊び」で実感しました。

この「ふれあい遊び」は、集会・音楽委員会（5、6年生）が自主的に企画しました。曜日ごとに学年を決めて、体育館に用意された五つのゲームコーナーで遊んでもらうという企画でした。ちゃんとコロナウイルス感染症への対応も考えられていました。



密にならないように、ちゃんと並ぶところに輪っかが置いてありました。



並んだ先には、わくわくするゲームコーナーがあり、夢中になって挑戦しました。



ゲームをクリアしたら、赤いシールがもらえました。こういう仕掛けが楽しいのです。

「ふれあい遊び」に集った子供の姿に、以下のような成長を見いだすことができました。

- 教師の手を借りるのは最小限にして、企画、準備、運営のほとんどを集会・音楽委員会の子供が中心になって、全力で取り組んでいた（休み時間を使って!!）こと。
- 「集会・音楽委員会の子供だけでは準備が大変だろうな」と考えた6年生が、ボランティアを募って準備や片付け、ゲームコーナーでの対応などを手伝ったこと。
- 会場にきた子供たちも、集会・音楽委員の指示をよく聞いて、ルールを守りながらゲームを楽しみ、その感想や感謝の気持ちを素直に伝えていたこと。



まとめると・・・自分たちでできるところまで頑張り、それを支えるために協力したり、助け合ったりする**自主・協働の姿**が見られたということです。

明日は2学期の終業式で、一人一人に通知表を渡します。学習の到達度を確認していただくとともに、所見欄もしっかり見ていただき、そこに**自主・協働の姿**が書かれていないか確かめてください。そして、そのことをしっかりほめたり、励ましたりして、3学期に向けてのやる気を刺激してください。どうぞよろしくお祈りします。

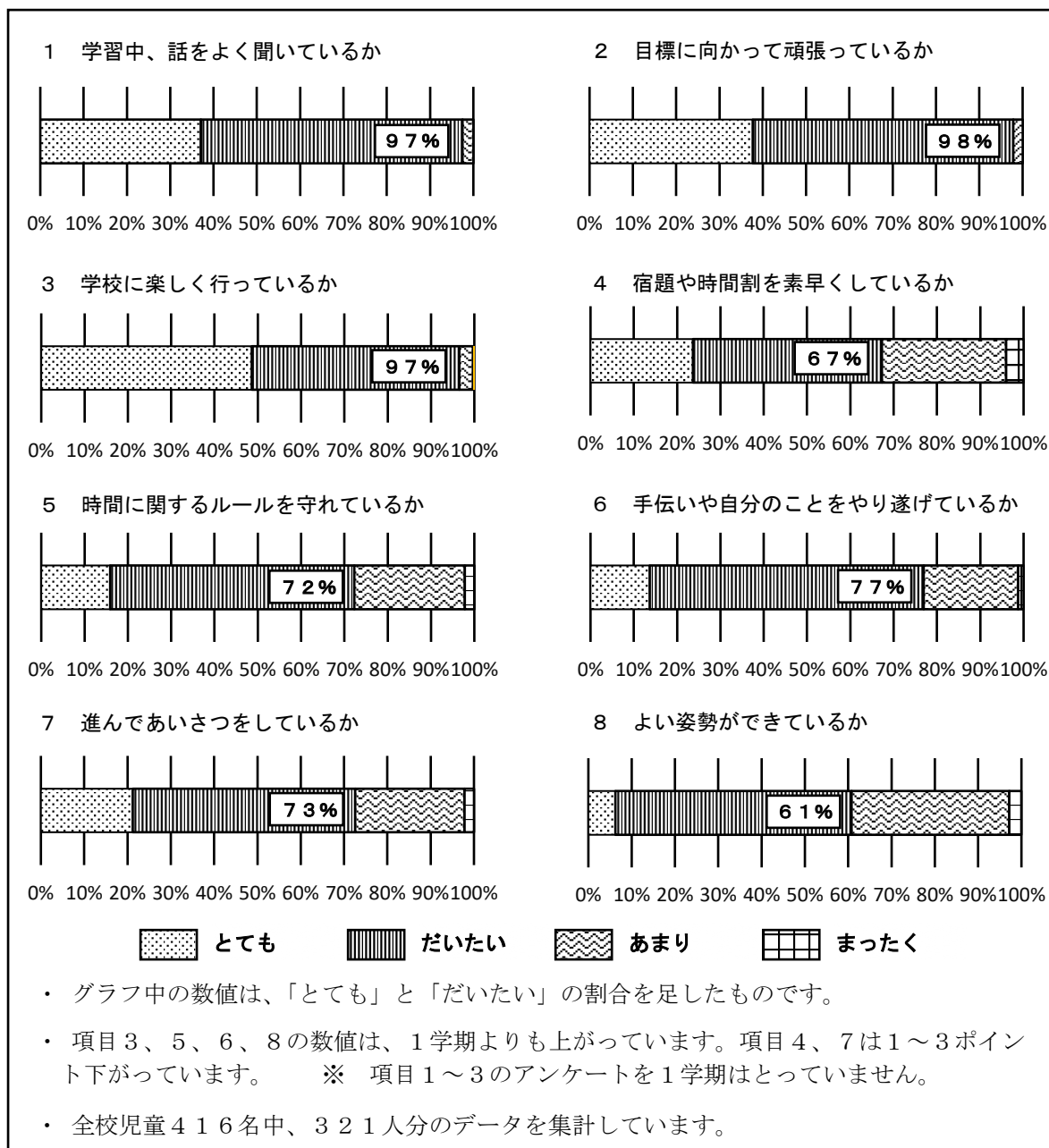


＜ 新型コロナウイルス感染症には最大限の注意を ＞

厚生労働省は、新型コロナウイルスの感染状況について、「大都市圏の感染拡大が波及することにより、全国的に感染が拡大している」と分析しています。そういう中での冬休みですから、各家庭での手洗い、マスク着用、3密回避の徹底をよろしくお祈りします。

※ 裏面もお読みください。

— < 令和2年度2学期 保護者アンケートの結果 > —



アンケート結果について、学校としては以下の課題を考えていく必要があると捉えます。

- 「とても」と「だいたい」を足した数値は高いが、どの項目についても「だいたい」の数値が高い。何ができていないから「だいたい」なのかを明らかにして指導のポイントを探り、「とても」の数値を高めること。
- 「8 よい姿勢」については学校で重点的に取り組んだ成果が数値に反映されていると捉えるが、「7 進んであいさつ」については、指導の効果がでていない。確かにできていないので、保護者や地域との連携も視野に入れた方策を考えること。

アンケートの結果から見てきた課題は、3学期の学校運営に生かしていきます。保護者の皆様、御多用の中、アンケートの御協力いただきありがとうございました。

※ アンケートに書いていただいた御意見や御要望への回答は次号に掲載します。